



QRコードを読み取り、令和4年6月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



すずき ひろむ
鈴木 弘
(至誠)

電力の需給逼迫と地産地消の再生可能エネルギーの状況について

問 公共、民間の屋根及び空き地に太陽光発電を設置するPPAモデル*の導入を推進するという計画があるが、現在の取り組みを伺う。

部長 今年度よりスタートした富士宮市ゼロカーボン推進戦略に基づき、公共施設の建物をはじめ、その敷地内における太陽光発電導入の可能性について調査を実施する。この結果により次年度より、順次公共施設へのPPAモデルを活用した太陽光発電設備の導入を進めていく。また、市が率先してPPAモデルの太陽光発電設備を導入することで、市民に対し積極的にPRを実施し、民間の屋根及び空き地への太陽光発電設備の導入を推進していきたい。これにより、二酸化炭素排出量の削減とともに災害時など大

規模停電が発生した場合でも電力を自給できると考える。

デジタル田園都市国家構想におけるウェルビーイングについて

問 ウェルビーイング指標の活用により各施策の意義がより明確となり、市民にとっても有益と思うが、当局はこのことをどう捉えるか。

部長 ウェルビーイングとは肉体的・精神的・社会的に満たされた状態を指す言葉でありウェルビーイング指標は、市民の視点から暮らしやすさ、幸福感を数値化し、可視化することができる指標。この指標を使って測定することで、政策分野の強み、弱みの特定が可能となり、市民の幸福感の状況把握ができることから、政策評価や政策立案に活用できれば、市民にとっても非常に有益であると考えている。

*PPAモデルとは、PPA事業者と契約することで、太陽光発電設備を初期費用ゼロで導入でき、メンテナンスもしてもらえる仕組み。さらに契約期間が終わった後は、設備を譲り受けられる。その代わりに、契約終了までの間、利用者はPPA事業者を利用した分の電気代を支払う。



いらい ゆきこ
臼井 由紀子
(富岳会)

学校図書館及び読書活動とボランティアについて

問 司書の配置のメリット及び今後の配置計画について伺う。

教育長 学校司書を配置する重要性については理解しているので、今後の学校司書の配置計画は、学校の実態を踏まえ、より専門性が発揮できる配置に努めるとともに、人数については関係部局と調整しながら検討する。

問 地域学校協働本部やPTAが連携したボランティア活動は、学校の組織とは全く別なものなのか伺う。

教育長 全国でコミュニティスクールというふうな形の学校の在り方に向けて動いている。その中で学校、学校運営協議会、地域学校協働本部、この3つが1つの学校に組織されたものをコ

ミュニティスクールという形で説明をしている。学校と目標やビジョンを共有して活動をするところが地域学校協働本部。各学校のボランティア活動が地域学校協働本部事業の活動に位置づくことにより様々な連絡調整が円滑になり、充実した活動になる。現在、地域学校協働本部は全ての学校に配置されていないので、早期に設置していきたい。

問 ボランティアとは読書、教育関係だけでなく、いろんな思いがあるということを理解していただければ、幾らでも皆さん協力をする体制はあると思う。財政が困難なときに、そういう人たちの気持ちをたくさん引き出していきたいと思うがいかがか。

市長 ボランティアの方の市に対するいろんなご奉仕というのはありがたい。市のほうから少しばかりですけれども、補助金を出したりできるだけその行為に甘んじて受けて、でもそれなりに市としてできることは考えていかなければならないなと思っている。